身

三年

画数 7
筆順 ノ 𠂆 冂 自 自 身
オン シン
クン み

成り立ち

おなかの大きな人の形をあらわした字で、「人の〝からだ〟」といういみをあらわした字です。〝体〟という字と同じいみの字なので、〝身体〟というじゅく語としてつかわれます。

〝体〟のことを〝み〟ともいいますので、身は〝み〟と読み、体は〝からだ〟と読んで、身と体とをくべつしてつかうようになりました。

〝人体〟のいみにかぎらずにつかわれるようになり、「ものの〝なかみ（中身）〟」のいみにつかわれるようになりました。

使い方

▽剣道や柔道は身も心も強くきたえる、日本どくとくのスポーツです。

▽つくえや、かばんの中身は、いつもよくせい理しておきましょう。

熟語例

▽身心（体と心。「心身」と書いても同じことです。「おとうさん、おかあさんは、子どもたちが身心ともにすこやかにそだつことを、ねがっています」などというふうに、つかいます。）

▽身体（体のこと。「身体けんさで、身長と体重などをそくていした」などというふうに、つかいます。）

▽身長（せの高さ）

▽全身（体全体。「プールで、全身を水にしずめようとすると、フワッと体がうきました」などというふうに、つかいます。）

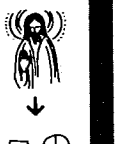
▽満身（全身と同じいみです。「うんどう会のつな引きで、満身の力をこめて、つなを引いた」などというふうに、つかいます。）

神

三年

画数 9
筆順 ノ 礻 礻 礻 礻 礻 神 神 神
オン シン・ジン
クン かみ・かん・こう

成り立ち



雷電（雷はかみなり、電はいなびかり）のいみをあらわした〝申（もうすの申と今の形はおなじですが、もとの形はまったくちがいます）〟と、神さまにそなえるものをおく台の形をあらわし、神さまのいみをあらわした〝示（示 5 732）〟とを組み合わせて作った字で、〝天の神さま〟といういみをあらわした字です。

〝かみなり〟は神鳴りということで、「天の神さまが、鳴らすもの」といういみのことばです。〝雷〟の〝田〟は神さまの鳴らす〝たいこ〟をあらわしたもので、〝電〟の〝乚〟は雷から出る〝いなびかり〟をあらわしたものです。

むかしは、〝天の神〟を〝神〟といい、〝地の神〟を〝社〟といってくべつしましたが、今では、天の神も地の神も〝神〟といってくべつしません。

使い方

▽日本人は、むかしは、八百万の神といって、たくさんの神さまがいると、かんがえていました。天の神さま、地の神さま、川の神さま、その他、本当にたくさんの神さまがいると、かんがえられていたのです。

▽富士山の神々しいすがたを見ていると、心がひきつけられます。それで、むかしからたくさんの画家が富士山の絵をかいてきたものです。

熟語例

▽神社（神さまをまつったところ。とくに、日本の神さまをまつった「おやしろ」をいいます。）

▽神主（神社につかえている人。とくに、その中でも一番えらい人をいいます。）

▽神話（神さまのお話。世界中の国々に、独自の神話が伝えられています。中でも「ギリシャ神話」や「北欧（北ヨーロッパ）神話」などが有名です。）

▽神聖（神さまのようにすぐれていること。また、清らかで、冒してはならないこと。「神社は神聖な地域だから、身も清めて、おまいりしなければならない」などというふうに、つかいます。）